

【現地速報（隊長・色部さんからファックス）】

「たくさんの人が地域を訪問してくれて、やっと地域の状況がつかめた」と現地専務がおっしゃっていました。余震が続いています。

支援県連＜長野・群馬・埼玉・富山・新潟・東京＞

＜新潟県生協連＞

支援物資は、長野からはトラック1台分の水。目立った支援物資は水とカップラーメン、おかず用缶づめ、病院に蓄えておいた非常用物資（700g-米の炊き込みご飯等）を全て吐き出して、送ってくれたところもあったようです。東京からの支援物資やカンパも喜ばれました。卓上コンロ・ガスボンベも活用してもらっています。

カンパは、東京民医連・理事会から¥35,000、東京保健・台東健康フェスタで¥46,537代々木病院友の会から¥160,000を渡しました。

診療は、生協診療所・かんだ診療所ともに、今日(月曜)は通常診療が可能となった。生協診（患者100人）かんだ診（患者50人）＜ディサービスは、休みの予定だったが通常通っていない人も含め11名来院＞患者さんは、2～3日たって傷が化膿している人が目立った。恥骨骨折+骨盤骨折の患者さんを中央病院に送り入院となった。中央病院は重症の患者であふれていて、殺人的忙しさとの事。他に便秘・不眠・火傷の患者さんなど。在宅患者から往診依頼もあった。2つの診療所とも気になる患者さんを泊めてあげたり、ディサービスの風呂を地域の方に開放したりベッドはないがいろいろ役割を果たしている。

私達は、10：00前に到着してすぐに意思統一（ここでハンドマイク＜東京＞が役に立ち）のあと看護師は避難所廻り、ほかは地域廻り。別紙の「地震に負けんぞニュース」を持って町中の人々との対話。わざわざ遠方から来てくれて・・・と大変喜んでくださいました。体育館（小学校）は一面に銀色のシートを敷いてあったが布団は自宅から持ち込んでいた。

血圧測定をしながら話を聞いて廻った。せきを切ったように地震のひどさ・怖さなどを話してくれた。遠方から来てくれたことに感謝すると、世間話をしただけでも良かったようだ。食事は菓子パンとお握りだけ。冷たい水やお茶はあるがしだいに食べたくなくなっている・・・と。味噌汁などがほしい。トイレが校庭に仮設で設置され、足の悪い人など大変だと。子供が可哀想だから遊ばせてやってよいという人と、うるさいけど仕方ないねという人と。子供は恐怖心が強かったが、集団となってはしゃいで元気を取り戻して、走り回っていた。

学校に比べ保育園や地域センターは、小さな部屋がいくつかあり落ち着ける雰囲気だった。近隣で助け合って避難しているのが特徴。（1人暮らしの方に声をかけたり、車椅子で移送してあげたり）すぐに対応しなければという人はいなかったが、風邪気味の方が数名いて、このままいくと、パート広がってしまいそう。

保育園・学校ともに今は休み。水曜から給食なしの午前授業が始まる。公立保育園の園長も震災後家に帰る事無く、泊り込んで避難所として受け入れをしている。

一見しただけでは、診療所の周囲はあまり被害はないようだが、家の中は食器が壊れたり、家具が倒れたりなどひどいあり様でとても生活できないと。糖尿病や高血圧の慢性疾患の患者さんも多く、ストレスと不規則で偏った食事で今後のコントロールについて心配。

支援物資の給付は、チラシを見て夕方7：00頃まで、近隣から水や食事など受け取りに来ていた。涙ながら帰られた方もいらっしゃいました。夕方から冷え込んできて、東京からのホカロンも喜ばれた。生協診のトン汁の炊き出しは好評。

ライフライン、地域差が大きく停電の所も一部あったようだった。今（10/25）夕方には、ガス管に危険な箇所があり、元栓を締めなければならない状態で、普及に遅れをきたしていた。今後の見通しとしては、飲料水が遅れるかもしれない。

今後のこと、グループホームの方は建物危険なので、ディサービスの一部の方なども、診療所に泊り込んでいて、看護師の夜勤者が求められている。医師・看護師の組織をお願いしたい。

☆ 法人・院所で「人的支援」や「車の配車」が

可能な時は別紙の表に記入の上、東京民医連までFaxしてください。

“困難あるところに、民医連あり” ともに頑張りましょう